

## 1. 不条理に向き合い、市民の抱える困難に寄り添う。

- ・ 個人だけで抱えるべきではない課題に直面しながら声を出せない人や助けを求められない人がいる。
- ・ 抱えきれない困難に起因する結果を全て個人の責任として背負わせることは、あまりにも不条理。
- ・ そんな不条理に向き合い、困難を抱える人に寄り添い、市民が幸せになるための後押しをする。

**キーワード「困難を抱える人に寄り添う」「市民が幸せになれる(まち)」**

## 2. 多様性が当たり前になる。そのために社会の形を変えていく。

- ・ 人それぞれが異なる個性があるからこそ、社会は持続的に発展してきた。
- ・ 社会の都合で多数であることが健常者と位置付けられているが、少数であることが問題であってはいけない。
- ・ めざすべき社会は、人々が多様性を認めあい、排除せず社会で受け入れること。

**キーワード「個性」「多様性を認めあう社会」**

## 3. 現実を受け入れる。その前提に立ち、持続可能な社会を構築する。

- ・ 経済成長が期待できない中で、大きな財源を背景にした行政サービスを実施することができない。
- ・ 今後のまちのあり方や負担のあり方も見直し、持続可能な社会を構築することが私たちの世代の責任。
- ・ まちのかたちも現実を受け入れ変えていきたい。
- ・ 人口増加を前提にした成功スタイルである郊外型住宅都市ではなく、人口減少を前提とした社会の形へと変わっていくことが持続可能な社会への道。

**キーワード「まちのあり方や負担のあり方の見直し」「人口減少を前提とした社会」「持続可能」**

## 4. 特別ではない。幸せは何気ない日常生活の中で感じるもの。

- ・ 幸せのかたちは多様、大事なものや価値観も人によって異なる。
- ・ 市民一人ひとりが、何気ない日常生活の中で幸せを感じる時間や景色を増やしていきたい。
- ・ 大切にしたい価値観は、一人ひとりに居場所があること、必要とされる出番があること、さらに、それらを自分で決定できること。

キーワード「**幸せのかたちは多様」「何気ない日常生活の中で幸せを感じる」「一人ひとりに居場所があること」「必要とされる出番があること」「自分で決定できること」**

#### 5. 政策はこどもからスタートする。こどもを幸せにする。

- ・こどもが幸せな社会はみんなが幸せな社会。
- ・多くの負担を後世に残しながら現在の社会を運営している。
- ・こどもからスタートし、個人だけでは抱えるべきではない困難に直面している人に寄り添い続けることに重点化していく。

キーワード「**こどもからスタート**」

#### 6. 自治を育てる。川西市が「自分事」になる。

- ・これらの社会を実現していくためには、政治や行政が果たすべき役割は重要。
- ・すべてを行政だけの力で実現することはできない。
- ・市民一人ひとりが川西市のことや地域のことを「自分事」としてとらえる。
- ・主権者として政策過程に参加すること、まちづくりのプレイヤーとして参画することが大切。
- ・行政は情報公開を進め意思決定の透明化を図る必要がある。
- ・(行政は)それぞれの決定内容や結果に対して説明する責任を負う。
- ・市民がまちづくりを「自分事」として受け取るために自治をはぐくむ取組が重要。
- ・無理に市外からの人口流入を求めるのではなく、川西市に関わりまちに愛着をもつ市民を増やす。

キーワード「**「自分事」としてとらえる」「行政は情報公開を進め意思決定の透明化を図る」「まちに愛着をもつ市民を増やす**」

#### 7. 新しいプレイヤーが生まれ続ける。その舞台を用意する。

- ・川西市には世代を問わず多彩な能力をもった市民が多数存在。
- ・その力を引き上げる舞台が必要。
- ・まちのプレイヤーは、川西に住む住民や団体だけではない。
- ・プレイヤーたちを自然に受け入れる仕組みを構築していく。

キーワード「**多彩な能力をもった市民が多数存在」「まちのプレイヤーは、川西に住む住民や団体だけではない」「プレイヤーを受け入れる仕組み**」